

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K12904

研究課題名（和文）日本における医学知識の生産・流通と映画の役割

研究課題名（英文）Production and Circulation of Medical Knowledge through Film in Modern Japan

研究代表者

藤本 大士（Fujimoto, Hiro）

京都大学・教育学研究科・特別研究員（PD）

研究者番号：20869234

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、映画が近代日本の医学知識・技術・情報の生産・流通に与えた影響を明らかにした。その際、映画が医学研究・医学教育・衛生啓発という3つの場面においていかに利用されたかに注目した。医学研究については、医学部教授が文部省や撮影技師と協力し、顕微鏡による細菌の撮影を進められていたこと、医学教育については、医学部での授業において手術映画の上映がおこなわれていたこと、衛生啓発については、内務省衛生局が映画製作会社と協力し、衛生映画を製作していたことなどが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、欧米での科学・技術・医学の歴史に関する研究では、知識・技術・情報の生産・循環に映画が与えた影響が徐々に分析されてきている。一方、筆者が専門とする近現代日本医学史研究では、様々なイメージやモデル（解剖図やムラージュなど）の分析は進められてきたものの、映画というメディアが果たした役割は分析されてこなかった。本研究は、近現代日本において映画が医学研究・医学教育・衛生啓蒙という場面でいかに利用されたかを分析し、人々の知識・技術・情報の生産・循環を描いてきた。これにより、医学映画史という新たな研究主題を提示した。それと同時に、医学史と映画史・メディア史という他の研究領域を架橋する可能性を提示した。

研究成果の概要（英文）：This research analyzes the impact of films on the production and circulation of medical knowledge, techniques, and information in modern Japan. It examines how films were used in medical research, medical education, and public health education. Medical scientists conducted research in cooperation with the Ministry of Education and cinematographers to depict the motion of bacteria using microscopes. Medical professors recorded surgical films and used them to teach students. The Bureau of Public Health of the Ministry of Home produced hygiene films to prevent the spread of infectious diseases.

研究分野：近代日本医学史

キーワード：医学史 映画史 メディア史 手術映画 衛生映画 顕微鏡映画 内務省衛生局

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1．研究開始当初の背景

近年、科学・技術・医学の歴史研究において図像・イメージへの関心が急速に高まっている。国外では初期近代～近代ヨーロッパ科学史における図像の役割を分析した Lorraine Daston and Peter Galison, *Objectivity* (New York: Zone Books, 2010)（邦訳：ロレイン・ダストン、ピーター・ギャリソン『客観性』瀬戸口明久、岡澤康浩、坂本邦暢、有賀暢迪訳、名古屋大学出版会、2021年）、国内では細菌の表象に注目した田中祐理子『科学と表象——「病原菌」の歴史』（名古屋大学出版会、2013年）などの研究がある。

一方、筆者が専門とする近現代日本医学史研究において、図像・イメージの役割に注目した研究は依然として少ない。数少ない研究の一つに、青木純一『結核の社会史——国民病対策の組織化と結核患者の実像を追って』（御茶の水書房、2004年）による研究があげられる。青木は、衛生啓発のために多様なメディア（具体的には、雑誌・小冊子、ポスター、劇、映画、落語、シール、歌、衛生展覧会など）が使われていたことを明らかにしている。

## 2．研究の目的

先行研究が主に静止画に注目してきたのに対し、本研究は動画・映画に注目し、映画技術が科学知識の生産・流通に与えた影響を明らかにすることを目指す。近年、欧米での科学・技術・医学の歴史に関する研究では、知識・技術・情報の生産・循環に映画が与えた影響が徐々に分析されてきている一方で、筆者が専門とする近現代日本医学史研究では、様々なイメージやモデル（解剖図やムラージュなど）の分析は進められてきたものの、映画というメディアが果たした役割は十分に分析されてこなかった（数少ない研究の1つとして、田中誠二・杉田聡・丸井英二「マラリア予防教育映画「翼もつ熱病」とその変遷——第二次世界大戦後の彦根市におけるマラリア対策」『日本医史学雑誌』59巻3号、2013年、379–389頁がある）。

本研究はとくに、映画が日本の医学界に対して与えた影響を明らかにする。具体的には、医学知識・技術・情報が映画を通じてどう流通したかを明らかにする。また、医師をはじめとする医療専門職、患者・市民、政府・自治体、製薬会社がそれぞれの目的（研究、教育、衛生啓発、自社製品広告など）のためにどのような映画を製作していたかも明らかにする。本研究課題ではとくに、映画が医学教育・衛生啓発・医学研究という3つの場面においていかに利用されたかに注目する。

## 3．研究の方法

医学に関する映画は現在残っているものがきわめて少ないため、医学雑誌、映画雑誌に掲載された医学に関する映画の情報を拾い上げていき、その分析をおこなう。具体的には『医海時報』、『実験治療』、『キネマ旬報』、『映画科学研究』などの雑誌を用いる。また、1925～1944年に日本で製作された映画の検閲リストである『映画検閲時報』から、医学に関する映画をすべて抜き出し、時代による推移を明らかにする。

## 4．研究成果

近現代日本において、映画が医学教育・衛生啓発・医学研究という3つの場面においてどのように使われていたかを明らかにした。

まず、医学教育については、1920年代から大学医学部の教育の場面で、実際の手術の様子を撮影した映画が使われるようになっていたことを明らかにした。その背景には、第一次世界大戦開戦後、日独関係が断絶してしまったために、それまで一般的であった日本人のドイツ医学留学が出来なくなり、また、ドイツからの医学の情報が入りにくくなったため、日本の医学界がドイツで製作された手術映画を輸入することで、そこからドイツの最新の技術を学ぼうとしていたことがあった。手術映画は医学生教育の目的に利用され、教育が効率的に進められるようになった。手術映画という形式が日本の医学界で知られるようになると、ドイツの医学映画を真似て、日本でも医学部教授たちが自らの手術の様子を撮影し、公開するようになった。その背景には、比較的安価で取り扱いやすい小型映画撮影機が日本に輸入されるようになっていたことがあった。医学部教授たちは、自らの手術の様子を小型映画撮影機によって撮影し、それを学会で上映し、自説をより説得的に示そうとした。さらには、海外で学会発表する時に、言語的な障壁を乗り越えるために、映画を使うことで、自らの業績を海外の研究者に伝えようとしたのであった。

医学教育と映画に関しては、“Circulation of Medical Knowledge and Techniques through

Film in Japan, 1929-1941”という論文（査読付き）として、国際誌 *East Asian Science, Technology and Society: An International Journal* (vol. 14, no. 3, 2020, pp. 439-458) に投稿し、掲載された。

次に、衛生啓発については、関東大震災以降、政府レベルで社会教育のための映画の活用が進められるようになり、感染症対策を主管する内務省衛生局が、映画を使った衛生啓発を進めるようになったことが明らかになった。その際に、衛生局は民間の映画製作会社と協力し、劇映画として衛生映画を製作し、市民に衛生に関する知識・情報を可能な限りわかりやすく伝えようとしていた。これは、文部省が製作していた医学映画が、学術的で、一般の聴衆にとっては面白みに欠けていたこととは対照的であった。1925～1944 年の『映画検閲時報』をみると、衛生映画をはじめとする医学関係の映画の製作数は、1920 年代後半、および 1940 年前後にその数が多くなっていたことがわかった。とくに、アジア太平洋戦争が始まる前後は、全国的に結核予防が推進されるようになっていた時期であり、その一環で官民をあげて結核予防のための映画が製作されるほどにもなった。

衛生啓発と映画については、“Health Education Film in 1920s and 1930s Japan: The Ministry of Home, Medical Professions, and Filmmakers”というタイトルで、2023 年にポストンで開催された Association for Asian Studies という国際学会で発表した。この英語での発表をもとに、現在、英語論文を執筆中であり、2023 年度内の投稿を目指したい。また、成果の一部を、筆者が参加している京都大学人文科学研究所パンデミック研究プロジェクトの論文集にコラムとして寄稿予定である。

最後に、医学研究については、大学医学部教授が、文部省や撮影技師などと協力し、顕微鏡を使って細菌の映画撮影を進めていたことが明らかになった。その先駆として、文部省が東京帝国大学伝染病研究所の指導のもと製作した「伝染病の病原体」(1925 年)があげられる。様々な映像技術を駆使した医学研究は戦後も続いており、日本の顕微鏡による動画撮影技術は世界的にも注目を浴びることになった。

医学研究と映画については、現在までに十分な情報を集めることができおらず、また、医学教育や衛生啓発に比較すると、戦後との連続性を強く見出すことができるため、今後は、戦後の状況を調査した上で、論文の執筆・投稿を目指す。

以上のように、本研究は、近現代日本において映画が医学教育・衛生啓発・医学研究という場面でいかに利用されたかを分析し、人々の知識・技術・情報の生産・循環を描いてきた。これにより、医学映画史という新たな研究主題を提示した。それと同時に、医学史と映画史・メディア史という他の研究領域を架橋する可能性を提示した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤本大士	4. 巻 60
2. 論文標題 要旨 1920-1930年代の日本における衛生映画	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学史研究	6. 最初と最後の頁 277-278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujimoto Hiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Circulation of Medical Knowledge and Techniques through Film in Japan, 1929-1941	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 East Asian Science, Technology and Society: An International Journal	6. 最初と最後の頁 439-458
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1215/18752160-8697737	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 藤本大士
2. 発表標題 1920-1930年代の日本における衛生映画
3. 学会等名 日本科学史学会第68回年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本大士
2. 発表標題 日本医学教育史における映画の位置づけ
3. 学会等名 教育史フォーラム・京都 第45回研究会
4. 発表年 2021年

1．発表者名 Hiro Fujimoto
2．発表標題 Health Education Film in 1920s and 1930s Japan: The Ministry of Home, Medical Professions, and Filmmakers Association for Asian Studies Annual Conference
3．学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference (国際学会)
4．発表年 2023年

1．発表者名 藤本大士
2．発表標題 コメント 日本の医学界における映画活用の歴史
3．学会等名 リサ・カートライト (望月由紀訳・長谷正人監訳)『X線と映画』書評会
4．発表年 2022年

1．発表者名 藤本大士
2．発表標題 日本における衛生映画の歴史
3．学会等名 京都大学人文科学研究所パンデミック研究プロジェクト
4．発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------